

ヤマハ株式会社  
2013年3月期  
決算説明会

2013年5月1日



## 外部環境

- 世界経済は北米市場が回復基調、欧州市場は不安定な状況継続
- 中国市場は成長率鈍化も着実に拡大  
その他の市場は先進国市場の影響受け成長にバラツキ
- 期を通じては高水準の円高も、年末以降は急速に円安への調整進む

## 決算概要

- 2013年3月期は対前期増収増益  
対前回予想(2/6発表)でも増収増益(4/25修正発表)
- 3Q需要期の各市場での減速影響と4Q販売見直し、生産調整により減益想定(2/6発表)も、4Qでの為替影響と販売管理費の削減等で対前期、対前回予想共に増収増益となる

# 2013/3期 通期業績概要



▶ 通期業績は前回予想に対し増収、各利益段階で増益  
 対前年実績でも増収、営業、経常増益 当期利益は黒字化

(億円)

	12/3	13/3	前期比	13/3 前回予想	前回予想比
売上高	3,566	3,669	+2.9%	3,650	+0.5%
営業利益 (営業利益率)	81 (2.3%)	92 (2.5%)	+13.6%	70 (1.9%)	+31.6%
経常利益 (経常利益率)	73 (2.0%)	86 (2.3%)	+18.3%	60 (1.6%)	+43.0%
当期利益 (当期利益率)	▲294 (—)	41 (1.1%)	—	0 (—)	—

## 為替レート

	(円)		
売上高	US\$	79	83
	EUR	109	107
利益	US\$	79	82
	EUR	112	103

\* 前回予想は2013/2/6 発表

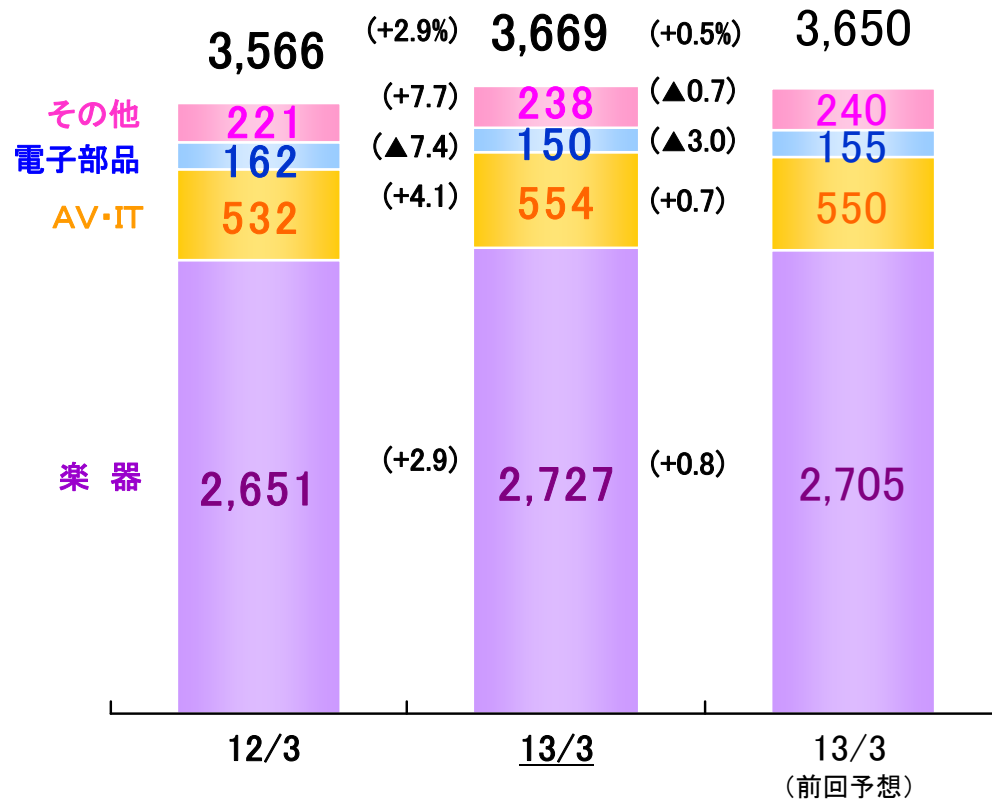
# 2013/3期 通期事業別業績



( )内は前期比  
または  
前回予想比

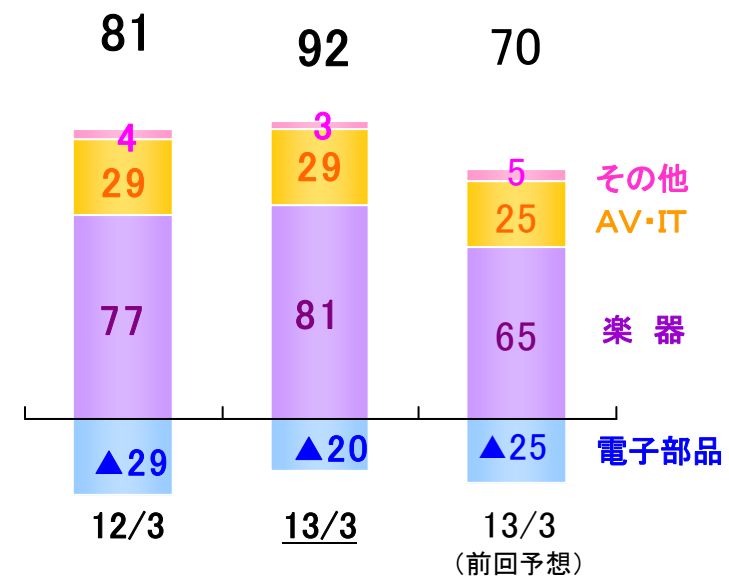
## 売上高

(億円)



## 営業損益

(億円)



為替影響額	
前期比較	+37億円 (楽器 +29億円、AV・IT +7億円、 電子部品 +1億円)
前回予想比較	+35億円 (楽器 +28億円、AV・IT +6億円)

\* 前回予想は  
2013/2/6 発表

為替影響額	
前期比較	▲30億円 (楽器 ▲19億円、AV・IT ▲11億円)
前回予想比較	+2億円 (楽器 +3億円、AV・IT ▲1億円)

# 国内事業構造改革

- 国内事業構造改革は順調に進捗。特別損失31億円(前回予想33億円)を計上
- 2014年3月期に損益改善効果25億円を見込む

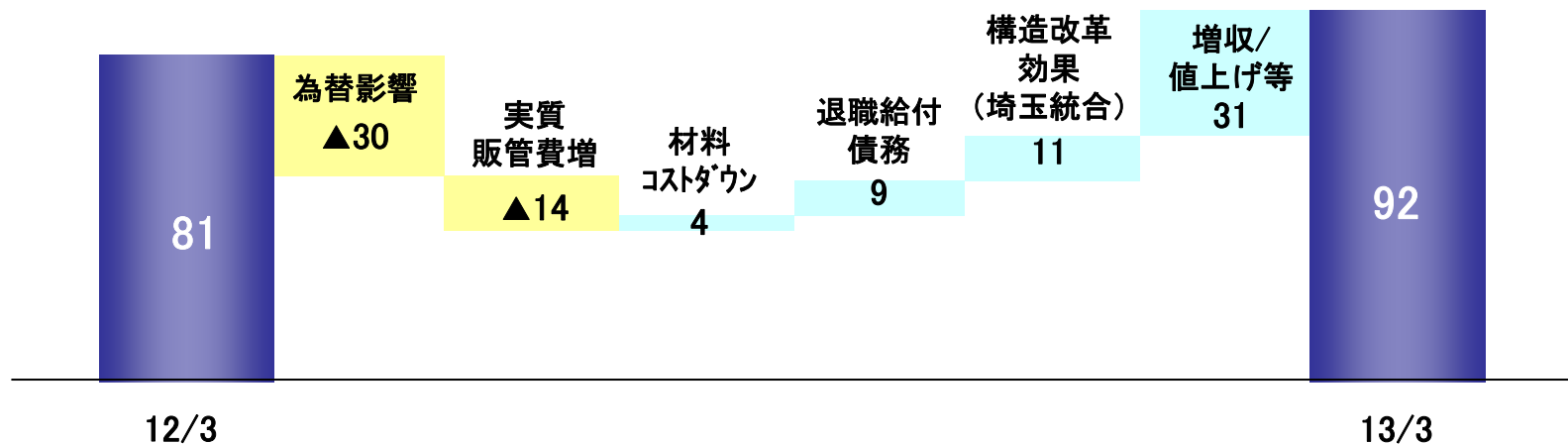
主な具体化施策	内容	構造改革費用	2014/3期効果
国内営業構造改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内営業及び小売販売子会社での雇用調整等</li> <li>・固定資産減損損失                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・卸販売の子会社化を4月に実施</li> <li>・小売販売会社8社を1社化</li> </ul> </li> </ul>	14億円 6億円	8億円
半導体事業構造改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿児島の生産子会社での早期退職募集</li> <li>・海外生産委託化によるコストダウン</li> <li>・地磁気センサー設備投資</li> </ul>	10億円 投資(8億円)	11億円
スタッフ業務構造改革	・シェアードサービス推進 アウトソースの活用		6億円
		31億円	25億円

\* 国内生産部門については、2014年4月子会社化実施に向け着実な準備を進める

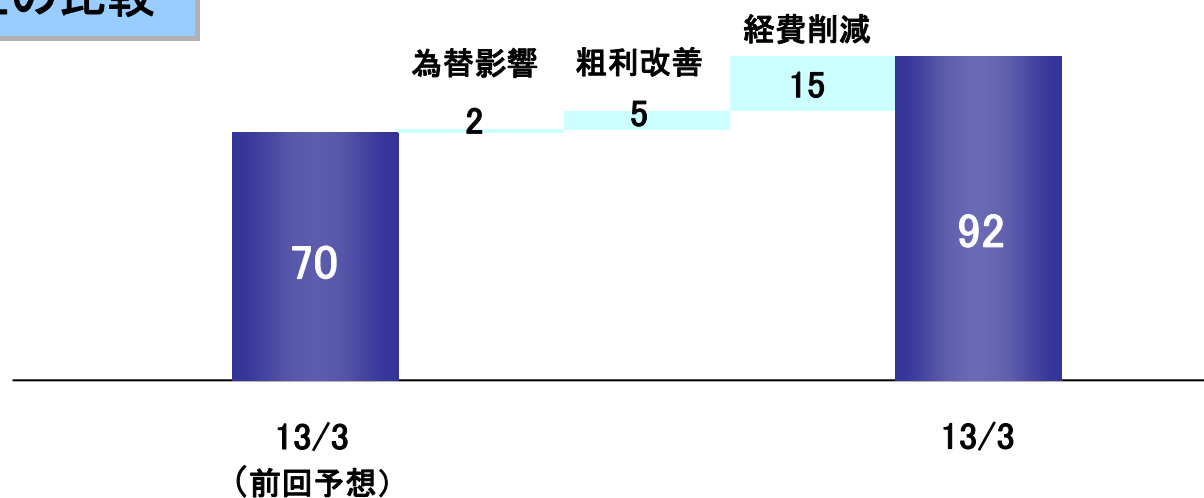
# 2013/3期 通期営業利益増減要因

## 前期との比較

(億円)

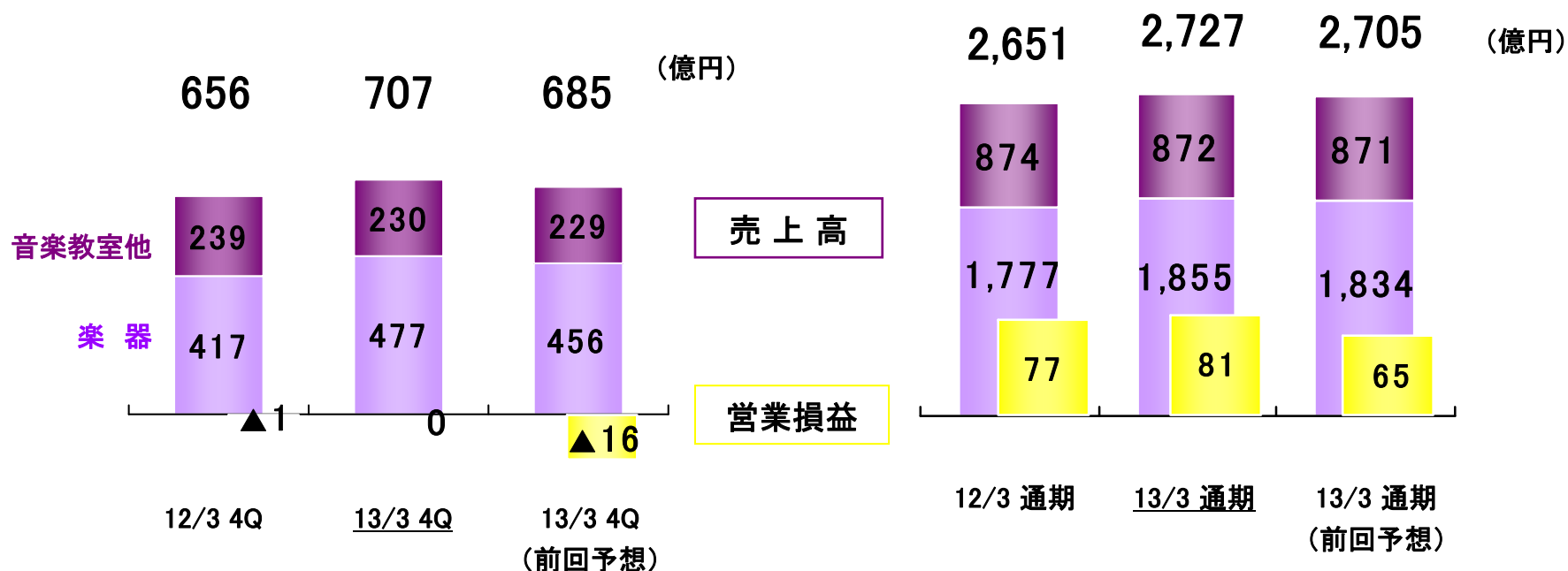


## 前回予想との比較



\* 前回予想は2013/2/6 発表

4Qの状況	通期の状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアノは北米、中国で堅調に推移</li> <li>・電子ピアノは対前年同期実績上回るも、ポータブルキーボードは苦戦</li> <li>・PA機器は二桁成長</li> <li>・管楽器は北米レンタル需要回復で堅調</li> <li>・国内は音楽教室、電子楽器等厳しく減収</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・需要期の販売が減速も実質では対前期増収</li> <li>・販売不振に伴う生産調整を実施</li> <li>・市場別では北米が堅調に推移、欧州は厳しい環境が継続 中国は成長率鈍化も二桁成長 その他市場は減速</li> <li>・商品別では、電子楽器、音響機器が期待値には未達も成長</li> <li>・国内の楽器・音響の営業改革を実施 4月子会社化を実施</li> </ul>

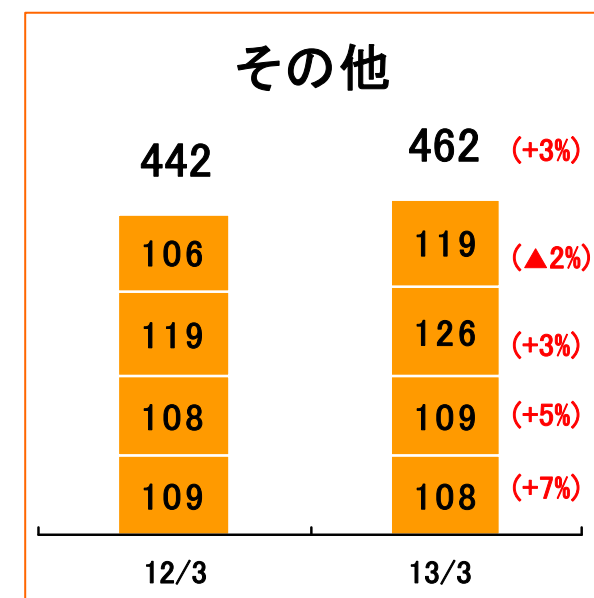
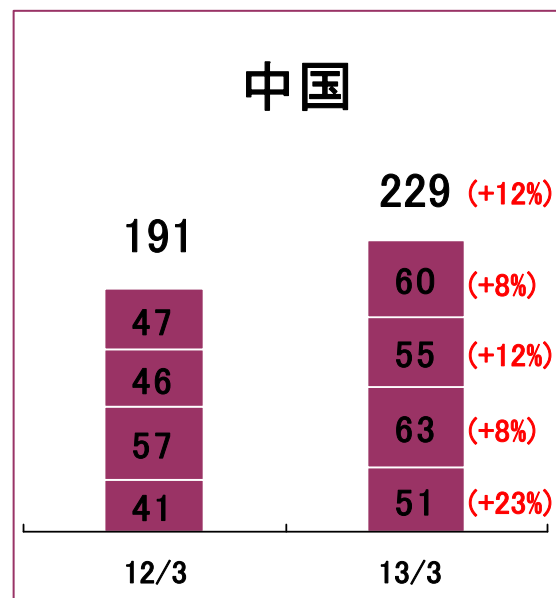
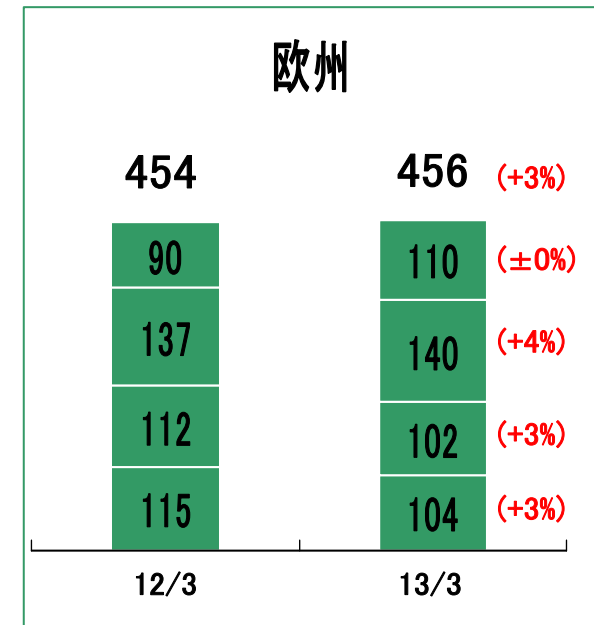
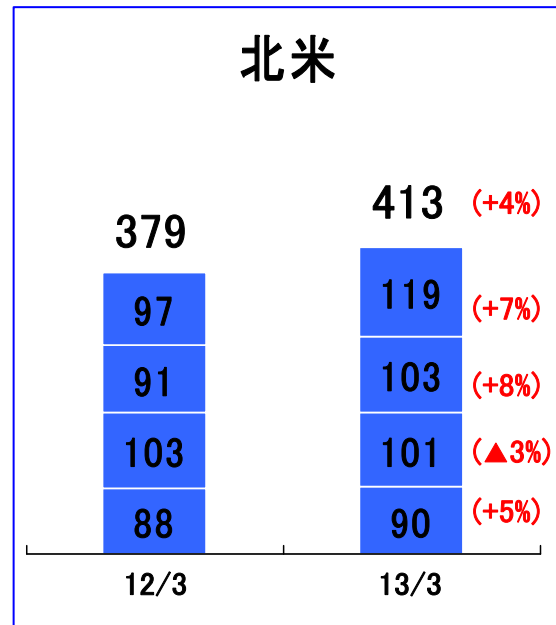
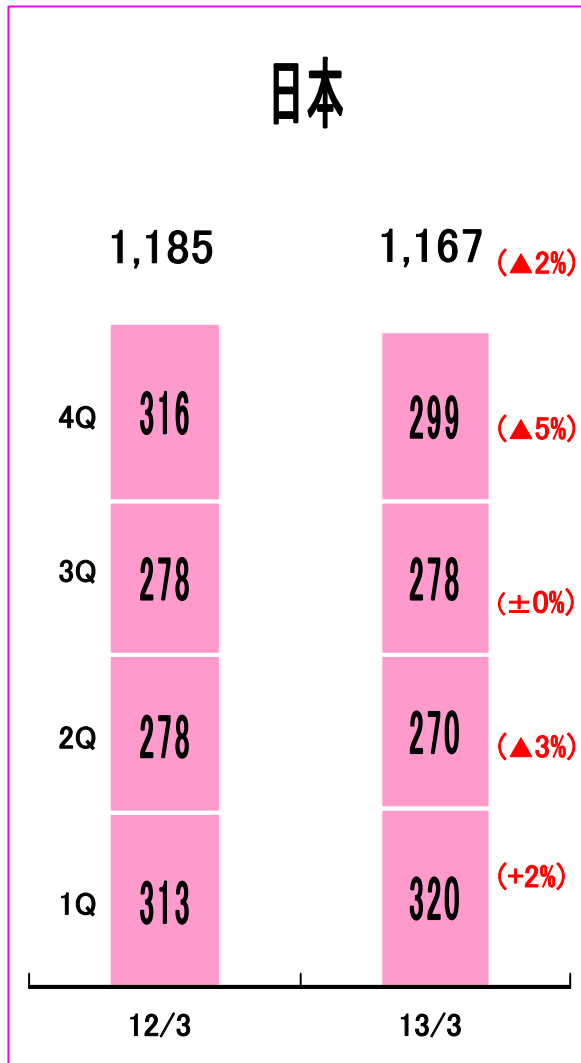


\* 前予想は2013/2/6 発表

# 楽器事業(地域別の販売状況)

(億円)

\*( )内は為替を除いた  
実質ベースでの前期比増減





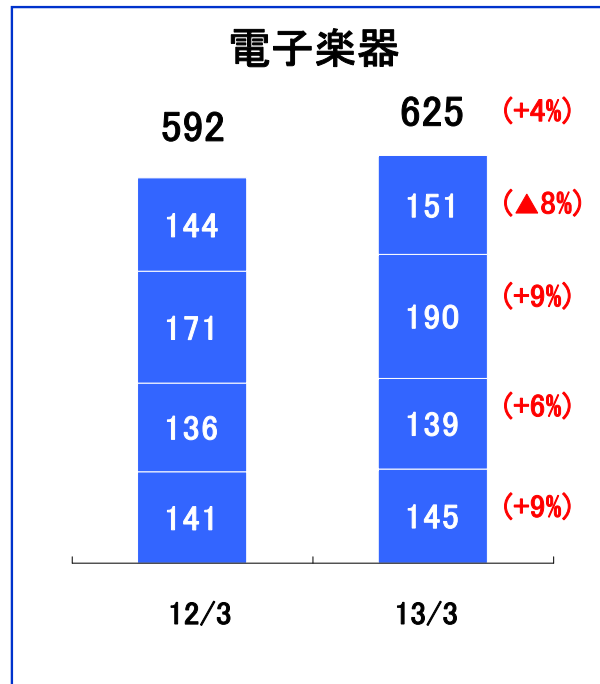
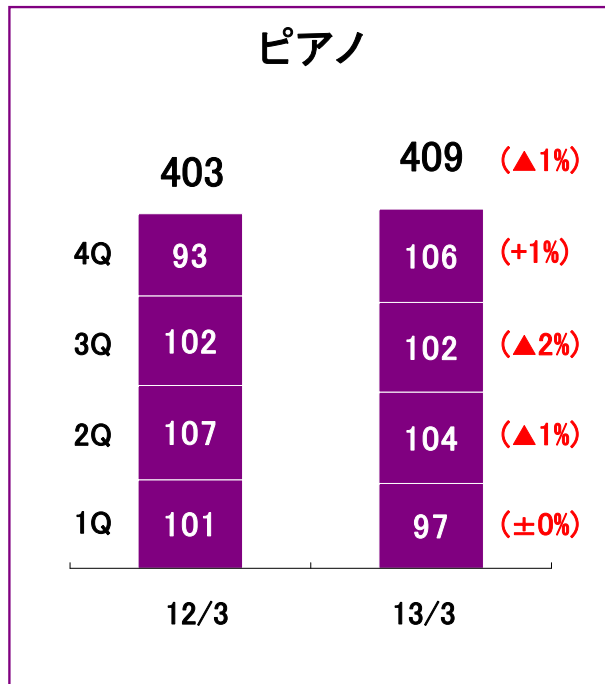
# 楽器事業(地域別の販売状況)



	楽器地域別状況
日本	<p>市況は停滞、市場全体で、震災影響のあった前年実績も下回る結果に終わる。ピアノは4Qでグランドピアノ、インドネシア製アップライトピアノが回復、ハイブリッドピアノNU1が対前期増加したものの通期では前年割れ。電子楽器も通期で前年に届かず。管楽器は期を通じて普及品の販売が苦戦した。</p> <p>ギターは、ギターアンプTHR好調継続などで前年を上回る。PA機器は物件減少、低単価化傾向が強まる中、4Q好調で通期でも対前期二桁成長となった。</p>
北米	<p>景気の緩やかな回復基調は継続。北米の4Q実績は、3月の売上好調により前年実績を上回り、通期でも対前年を上回る。カナダは年末以降の低迷状態から脱することができず。北米全体の商品別ではポータブルキーボード、シンセサイザー、ドラムを除き全ての商品で対前年を上回る。</p>
欧州	<p>欧州は、景気後退局面に変化なく4Q単独で前年実績維持に留まった。市場別では、北欧・英・仏・西・東欧で前年超、中欧・伊は前年割れの状況。商品別ではPA機器・管楽器・弦打楽器が前年を上回ったが、ピアノ、電子楽器は前年に及ばず。</p> <p>通期では、前年実績を上回るが微増に留まった。地域別で英・中東欧・北欧は前年超も、経済状態が厳しい仏・西・伊の南欧諸国は前年実績に届かず。商品別では電子ピアノ、PA機器で前年を上回るも他商品は概ね前年割れの結果となった。</p>
中国	<p>通期、市場全体では、対前期二桁成長を達成した。</p> <p>3Qの消費冷込と反日運動後、市況は4Qでやや持ち直すものの、大幅な回復には至らず。主力のピアノは景気減速影響で日本製高級品苦戦だが、現地製が堅調に推移した。電子鍵盤楽器やギター、PA機器が4Qで好調に推移した。</p>
その他の地域	<p>先進諸国や中国の経済減速の影響下、新興市場景気もスローダウン。主要新興国ではロシアが売上を拡大もインドは前年並み。東南アジアはインドネシア、タイが好調維持。中南米ではアルゼンチンが輸入規制継続で低迷、コロンビア、ブラジルがスローダウンするもメキシコは伸長。中東はイラン経済制裁、シリア問題長期化で影響深刻。楽器店復調の兆しが見えた豪はほぼ前年並みに回復。</p>

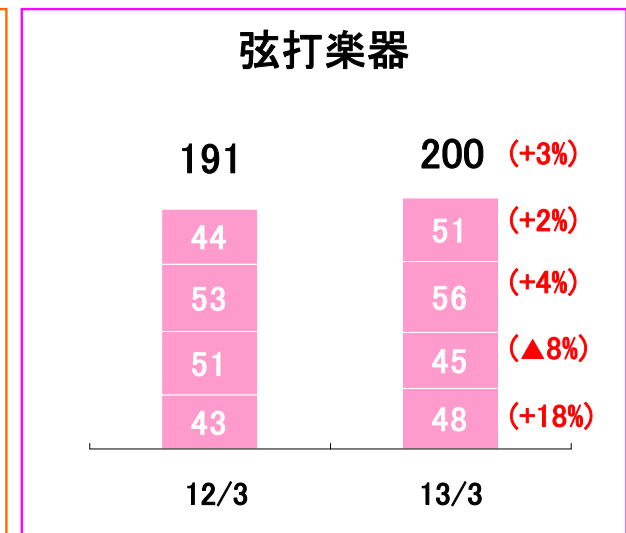
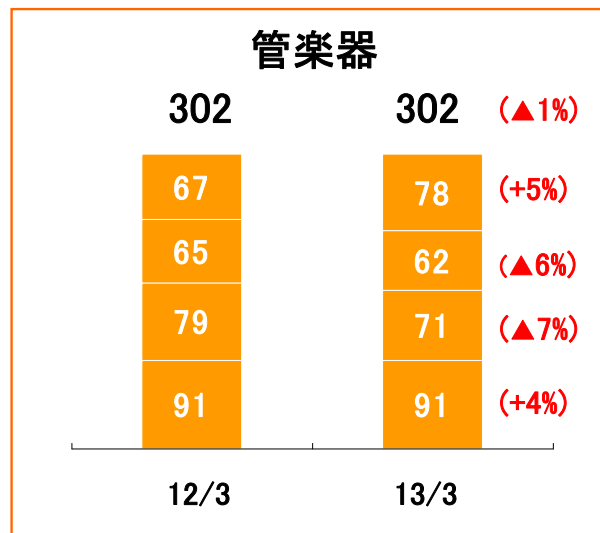
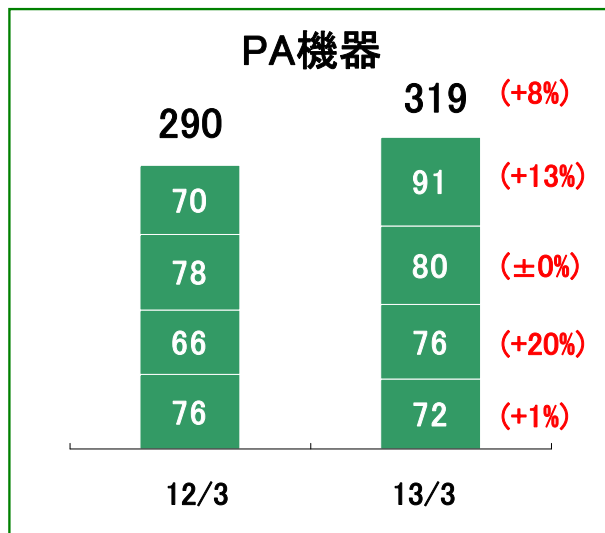
# 楽器事業(商品群別の販売状況)

(億円)

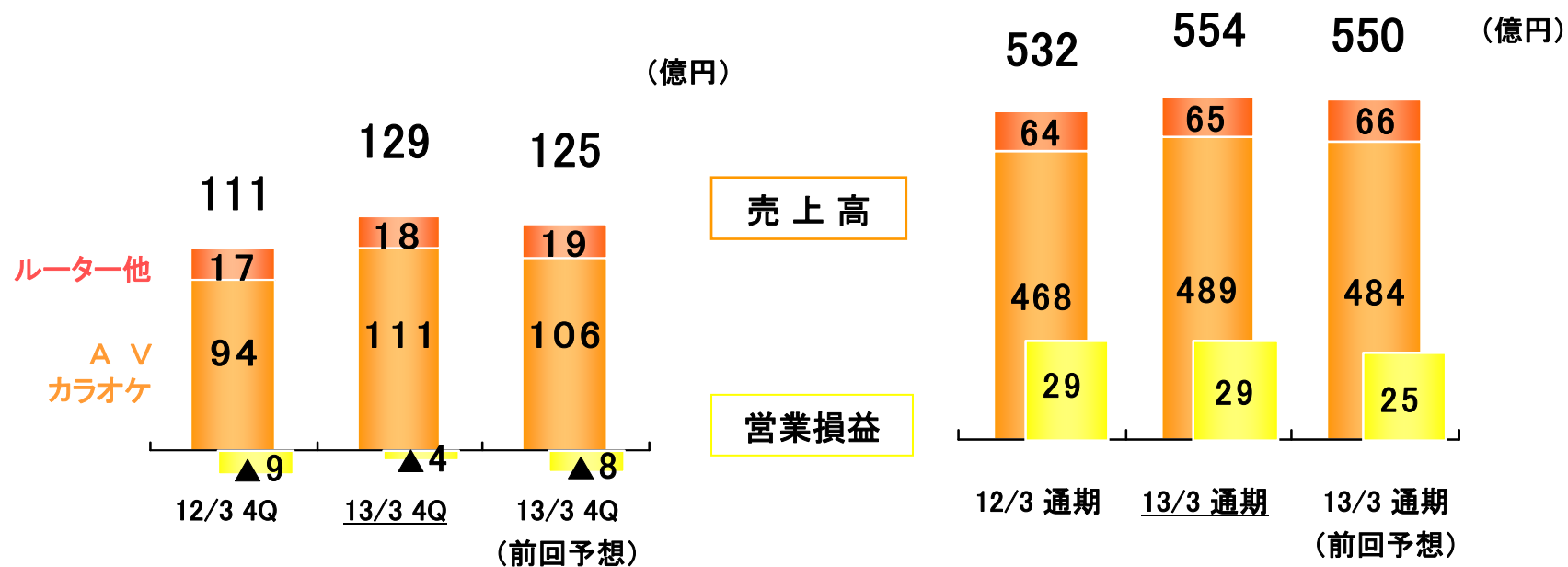


\*( )内は為替を除いた  
実質ベースでの前期比増減

※エレクトーンを電子楽器に  
含めて表示しております。

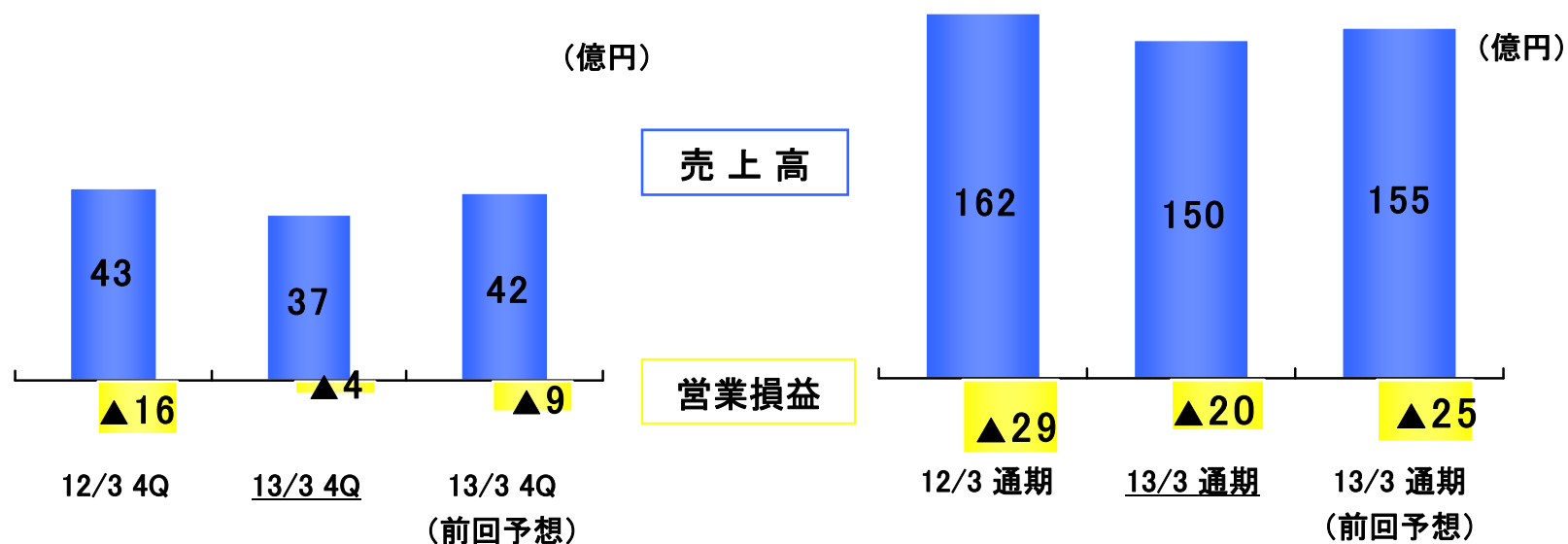


4Qの状況	通期の状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・増収に伴い損益改善</li> <li>・北米、欧州市場でAVレシーバーが好調</li> <li>・テレビ周辺機器も海外市場で本格的な販売増へ</li> <li>・通信カラオケは堅調に推移</li> <li>・ルーターは大型案件減少も堅調</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対前期増収損益横ばい、対前回予想増収増益</li> <li>・オーディオは北米市場が好調を継続し牽引</li> <li>・サウンドバーが北米、欧州で伸長</li> <li>・通信カラオケはモデルチェンジ効果が持続、順調に出荷</li> <li>・ルーターは市場在庫調整もあり前年並み</li> </ul>



\* 前回予想は2013/2/6 発表

4Qの状況	通期の状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・対前年同期、対前回予想共に減収損益改善</li> <li>・アミューズメント画像用が苦戦も音源用は堅調に推移</li> <li>・地磁気センサー堅調も、その他の用途別では前年実績に届かず</li> <li>・営業粗利改善と鹿児島生産子会社の損益改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アミューズメント用が下期回復の遅れ</li> <li>・海外生産委託化が進展</li> <li>・地磁気センサーは堅調に推移</li> <li>・鹿児島生産子会社の早期退職実施等での固定費圧縮</li> </ul>

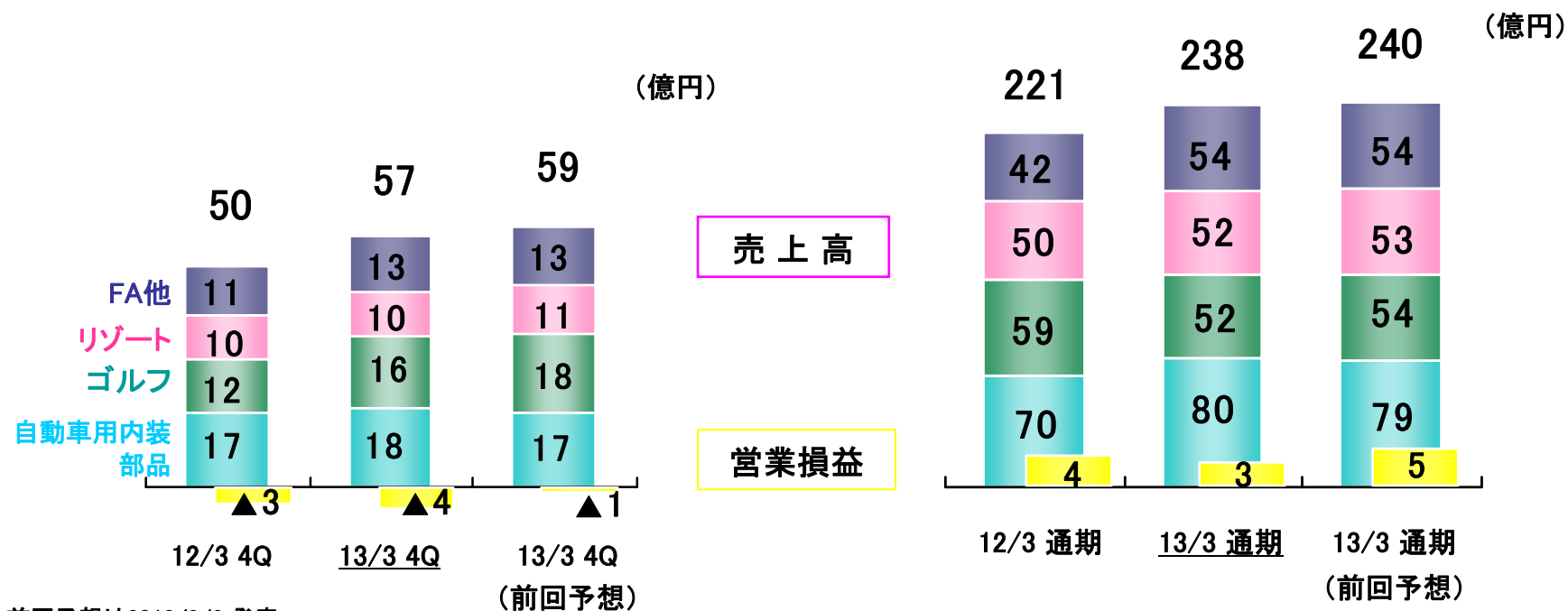


\* 前回予想は2013/2/6 発表

# その他の事業



4Qの状況	通期の状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車用内装部品は順調に推移</li> <li>・ゴルフ用品の製品不良問題発生も対策概ね完了</li> <li>・リゾートは、冬季集客施策が奏功し日帰り客増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車用内装部品は1Qの得意先モデルチェンジに円滑に対応、その後も堅調に推移</li> <li>・ゴルフは、海外市場不振、国内市場での製品問題等で減収</li> <li>・リゾートは、下期非需要期対策に一定の効果</li> <li>・FAについては、受注回復基調</li> </ul>



\* 前回予想は2013/2/6 発表

## 事業環境

- 米国は緊縮財政による懸念も景気回復基調
- 欧州は財政問題等で不透明感継続
- 中国は成長率鈍化も着実に成長、新興国市場も堅実な拡大を見込む

## 業績見通し

- 対前期増収増益を予想
- 国内事業構造改革効果(半導体・国内営業)を見込むことに加え、為替による増益効果を想定
- 商品別では電子鍵盤楽器、PA機器、市場別では北米、中国、その他の市場での成長を想定

### 開示セグメントの変更について

2014年3月期第1四半期よりセグメントの内容と名称を変更

- ① PA機器を「楽器事業セグメント」から「AV・IT事業セグメント」に移動
- ② 「AV・IT事業セグメント」の名称を「音響機器事業セグメント」へ変更

※2013年3月期の新セグメントによる実績値は、比較のために組み替えた参考値です

# 2014/3期 業績予想



▶ 対前期増収、各利益段階でも増益を見込む

(億円)

	13/3	14/3 予想	増減額	伸び率
売上高	3,669	3,900	+231	+6.3%
営業利益 (営業利益率)	92 (2.5%)	180 (4.6%)	+88	+95.3%
経常利益 (経常利益率)	86 (2.3%)	165 (4.2%)	+79	+92.3%
当期利益 (当期利益率)	41 (1.1%)	135 (3.5%)	+94	+227.5%

## 為替レート

(円)

売上高	US\$	83	85
	EUR	107	115
利益	US\$	82	85
	EUR	103	115

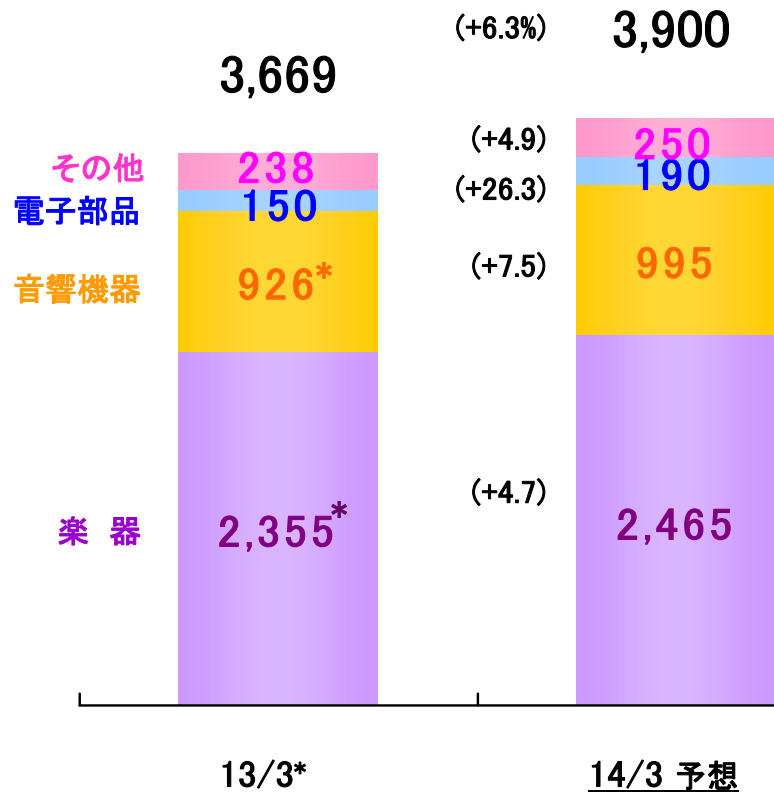
# 2014/3期 事業別業績予想



## 売上高

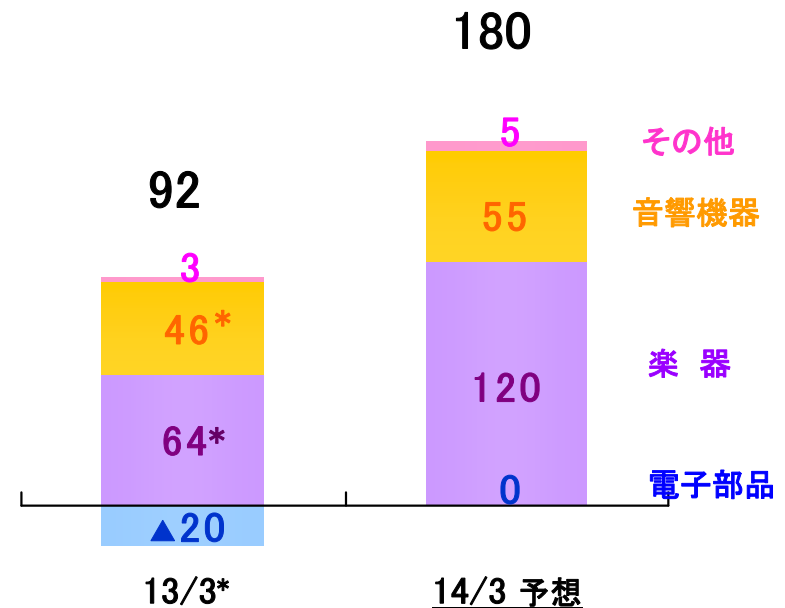
( )内は前期比

(億円)



## 営業損益

(億円)



※13/3期の新セグメントによる実績値は、比較のために組み替えた参考値です

	為替影響額
前期比較	+96億円 (楽器+61億円、音響機器+35億円、電子部品 +1億円)

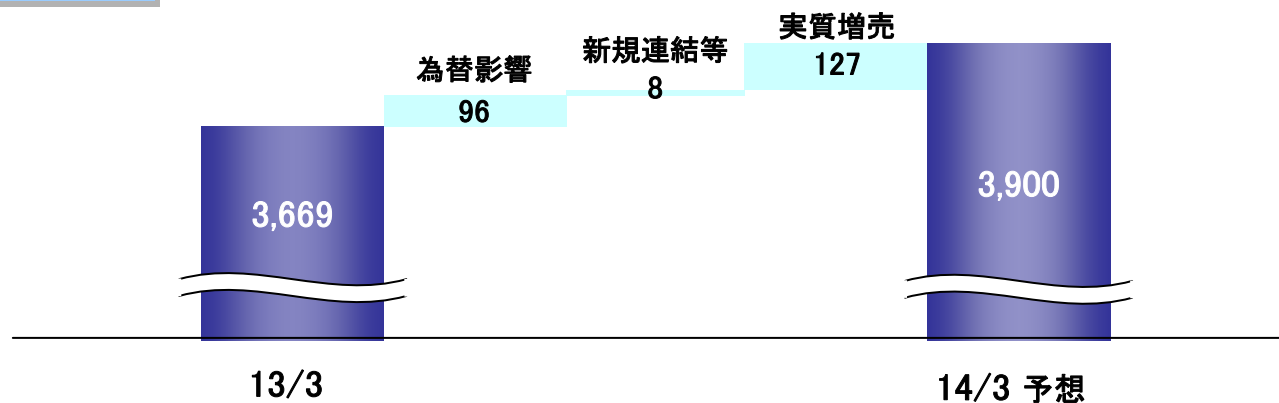
	為替影響額
前期比較	+63億円 (楽器+43億円、音響機器+20億円)



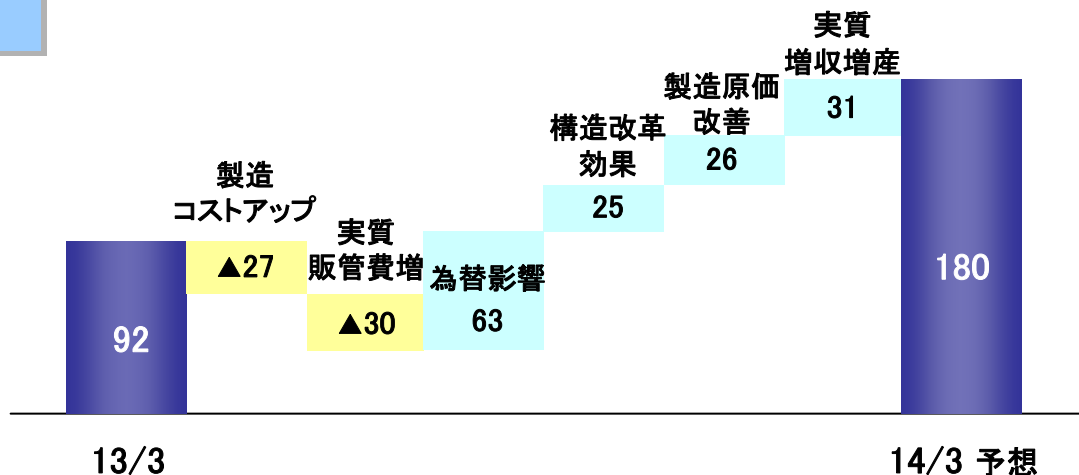
# 2014/3期 売上高・営業利益予想増減要因

## 売上高

(億円)



## 営業利益



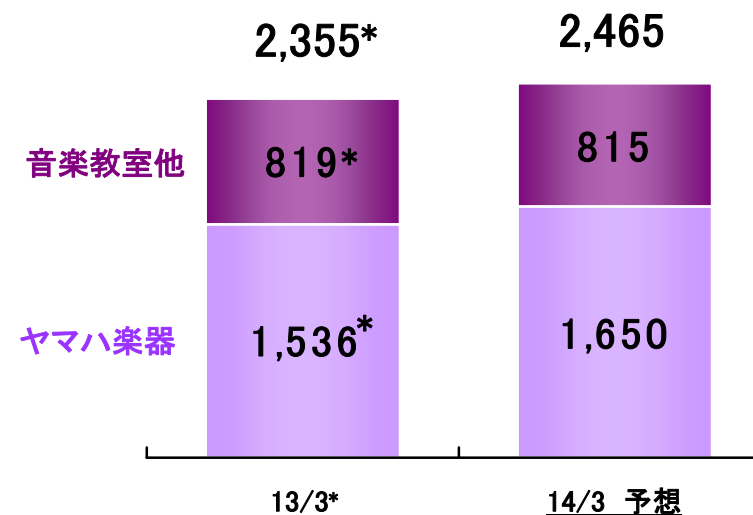
# 楽器事業（予想）

**通期予想**

- ・対前期増収増益
- ・市場別には中国、新興国市場での増収
- ・電子鍵盤楽器中心に管楽器、弦打楽器増収
- ・国内営業構造改革による損益改善効果

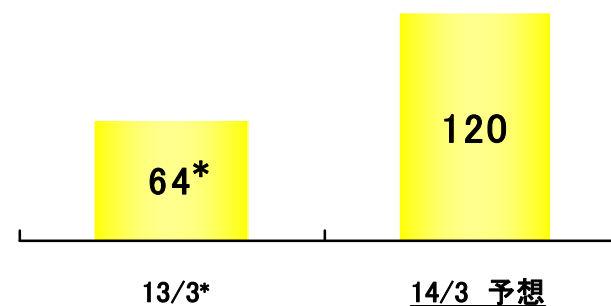
## 売上高

（億円）



## 営業利益

（億円）

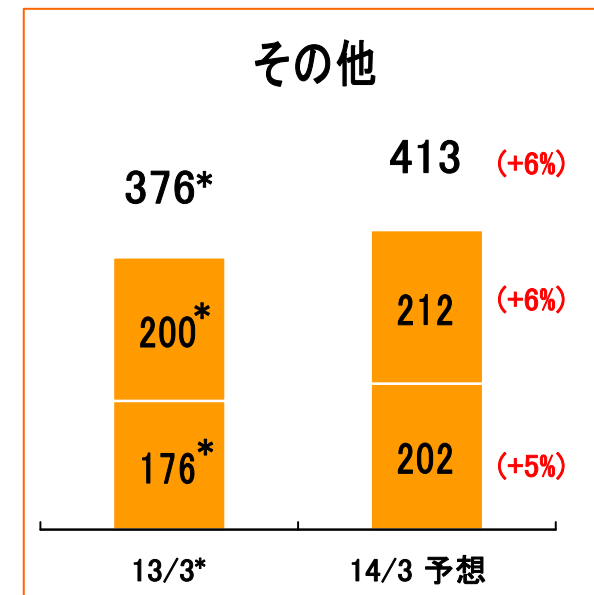
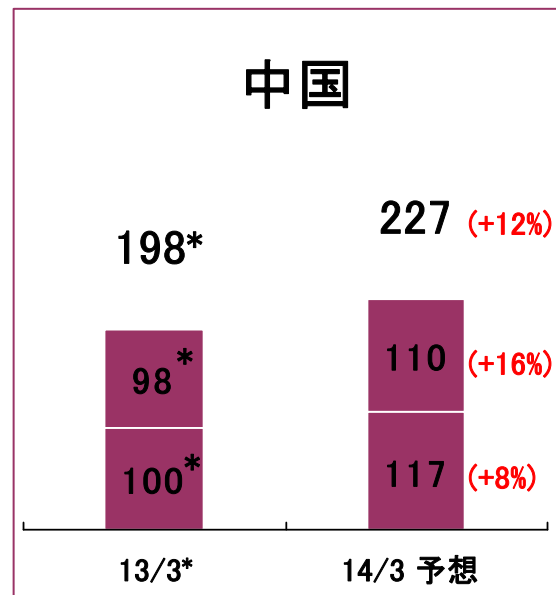
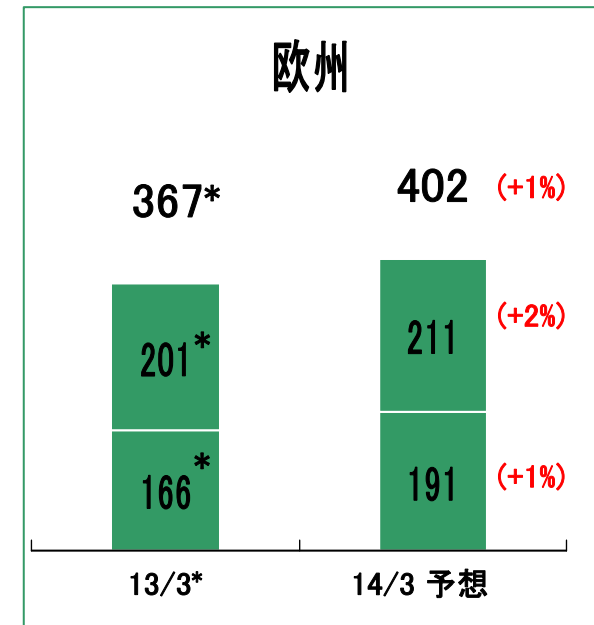
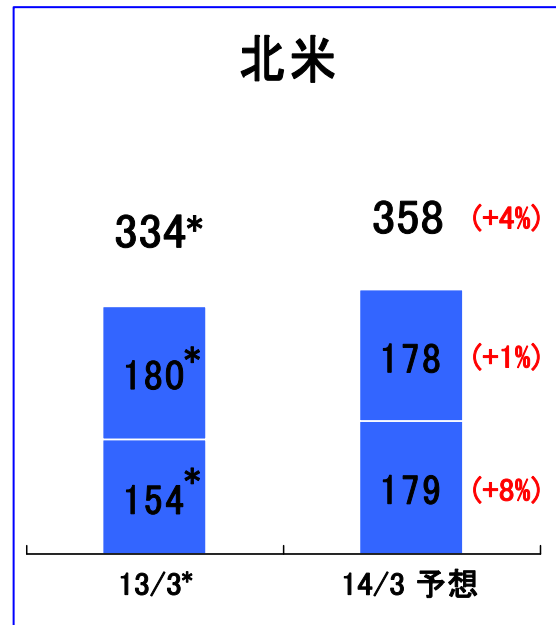
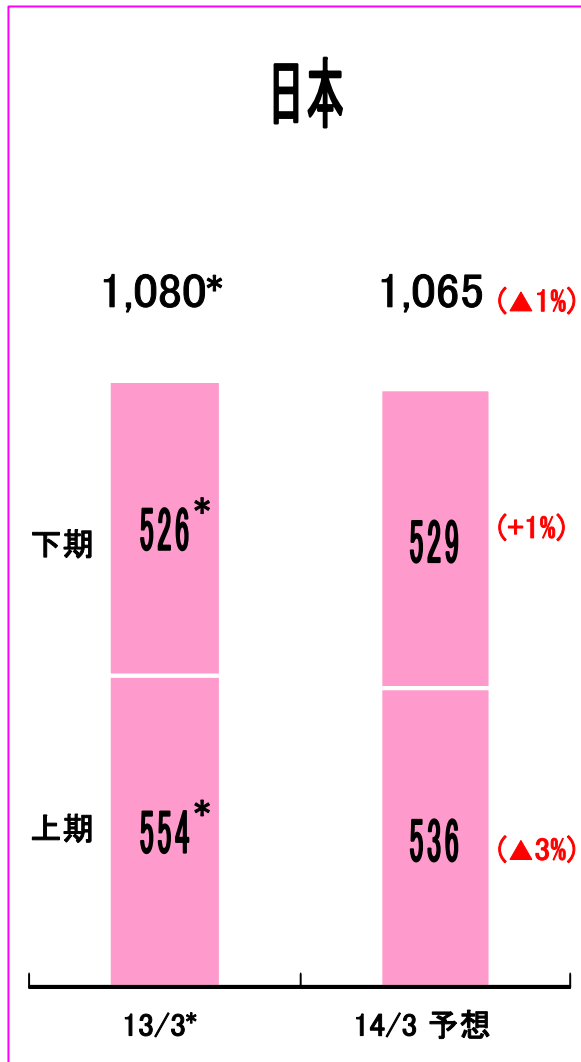


※13/3期の新セグメントによる実績値は、比較のために組み替えた参考値です

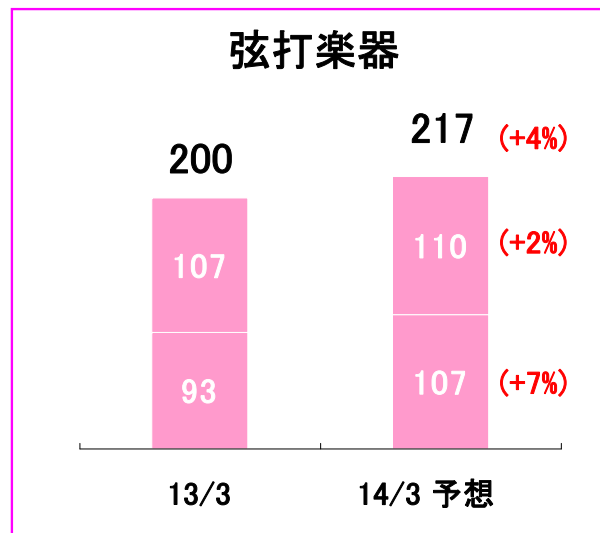
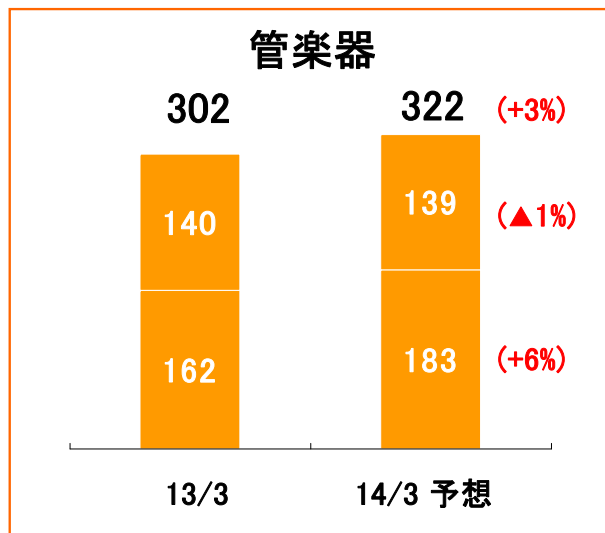
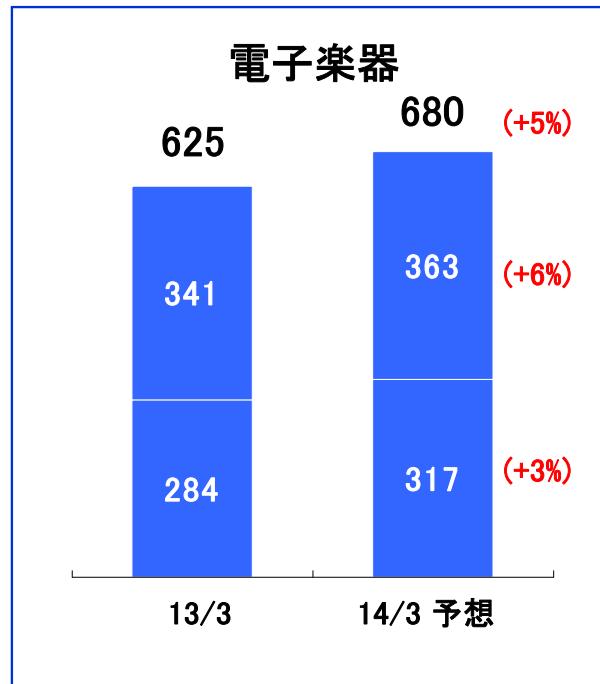
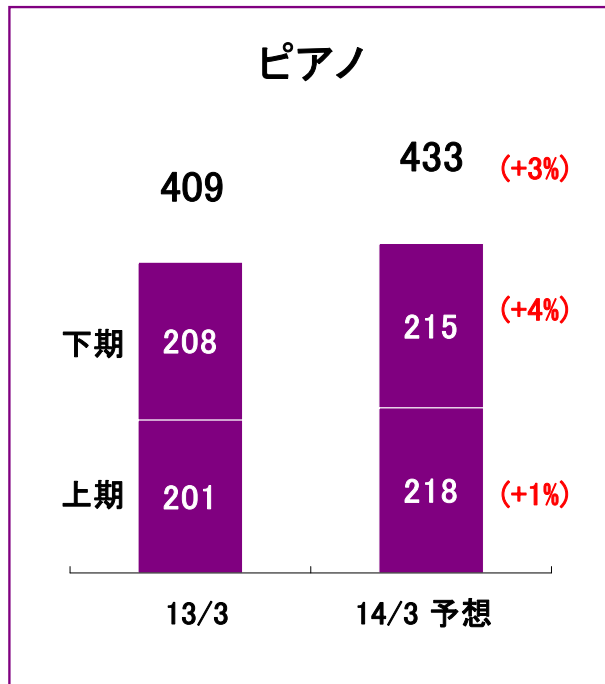
# 楽器事業(地域別の販売状況)

(億円) \* ( )内は為替を除いた  
**実質ベースでの前期比増減**

※13/3期の新セグメントによる実績値は、  
 比較のために組み替えた参考値です

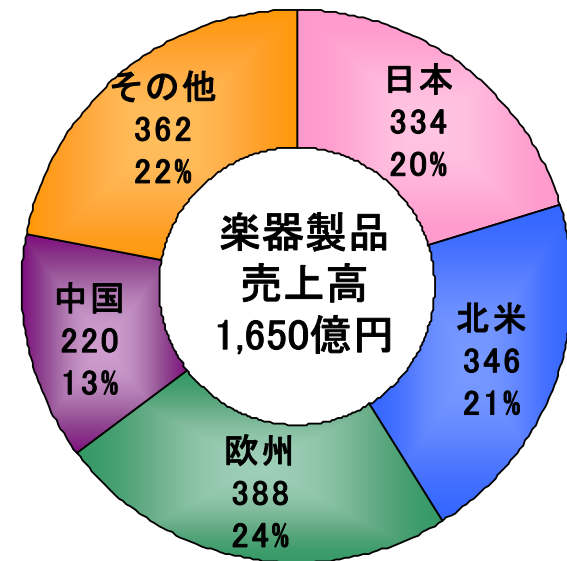


# 楽器事業(商品群別の販売状況)



\*( )内は為替を除いた  
実質ベースでの前期比増減

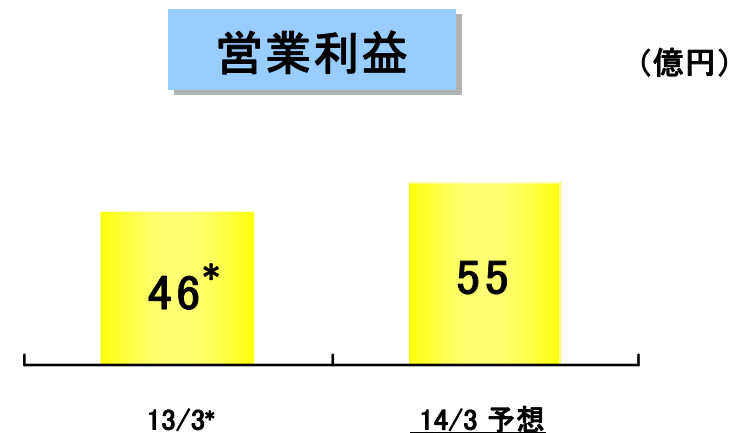
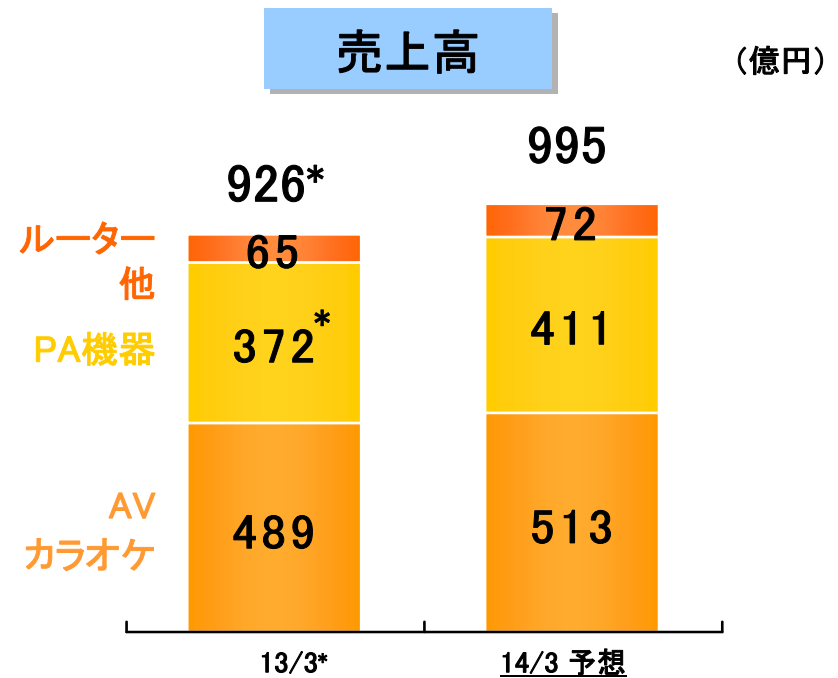
楽器製品売上高  
の地域別内訳



2014/3予想

# 音響機器事業(予想)

通期予想
<ul style="list-style-type: none"> <li>・対前期増収増益</li> <li>・カラオケはモデルチェンジ効果薄れ減収</li> <li>・PA機器は事業領域拡大もあり増収</li> <li>・ルーターは在庫調整一巡、商品領域拡大</li> <li>・PA機器、ルーター等は商品開発費用先行</li> </ul>



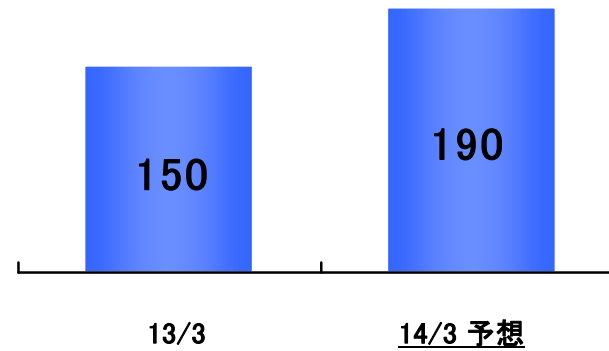
※13/3期の新セグメントによる実績値は、比較のために組み替えた参考値です

# 電子部品事業（予想）

通期予想
<ul style="list-style-type: none"><li>・対前期増収、事業構造改革効果を含め黒字化を目指す</li><li>・鹿児島、早期退職による固定費減</li><li>・生産品目の外部委託化による原価低減</li><li>・地磁気センサー投資によるコストダウン効果</li><li>・アミューズメント画像採用案件拡大</li><li>・コーデック新商品による増収期待</li></ul>

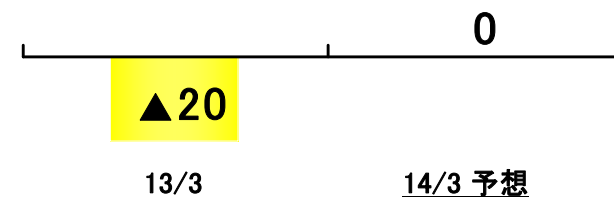
## 売上高

(億円)



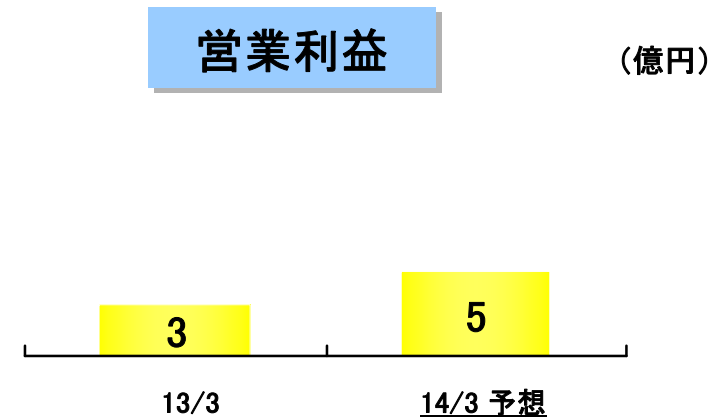
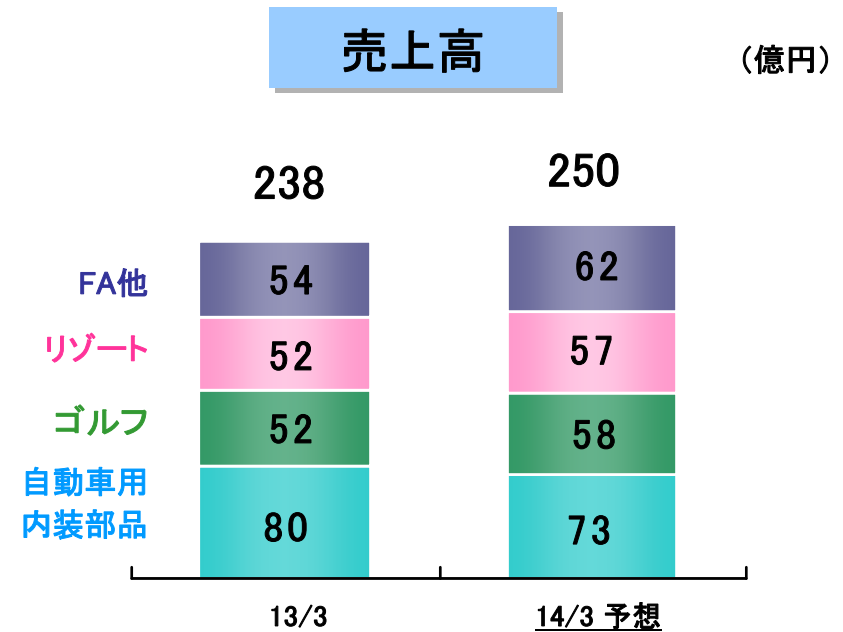
## 営業損益

(億円)



# その他の事業（予想）

通期予想	
・対前期増収増益	
・自動車用内装部品は新モデル一巡で減収	
・ゴルフは前々期並みまで回復を想定	
・リゾートは集客企画強化などで増収	
・FA機器は増収を想定	

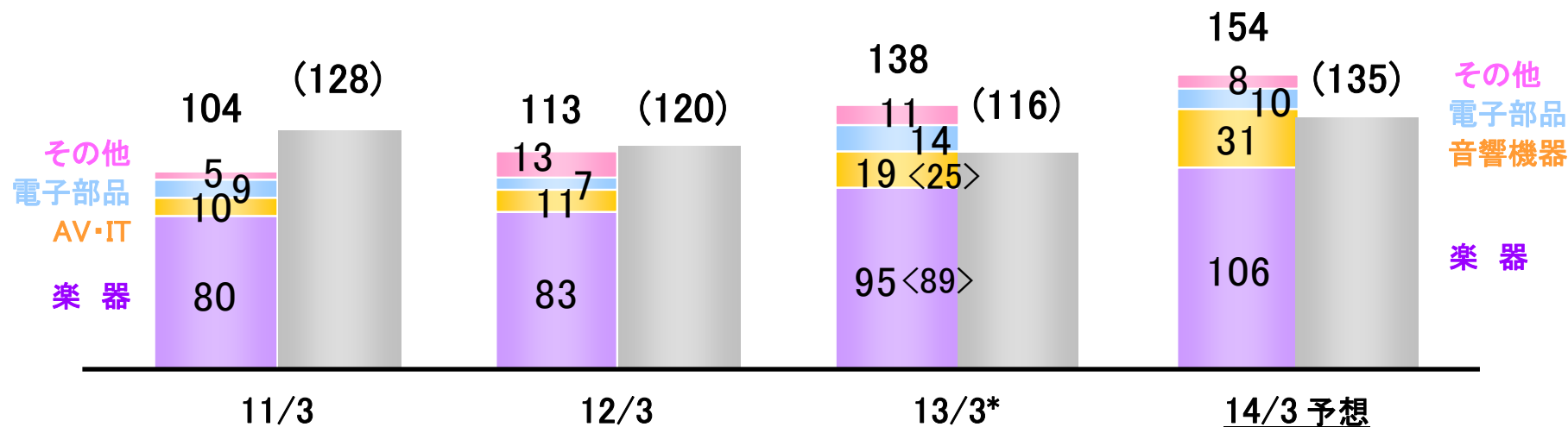


# 設備投資額・減価償却費/研究開発費

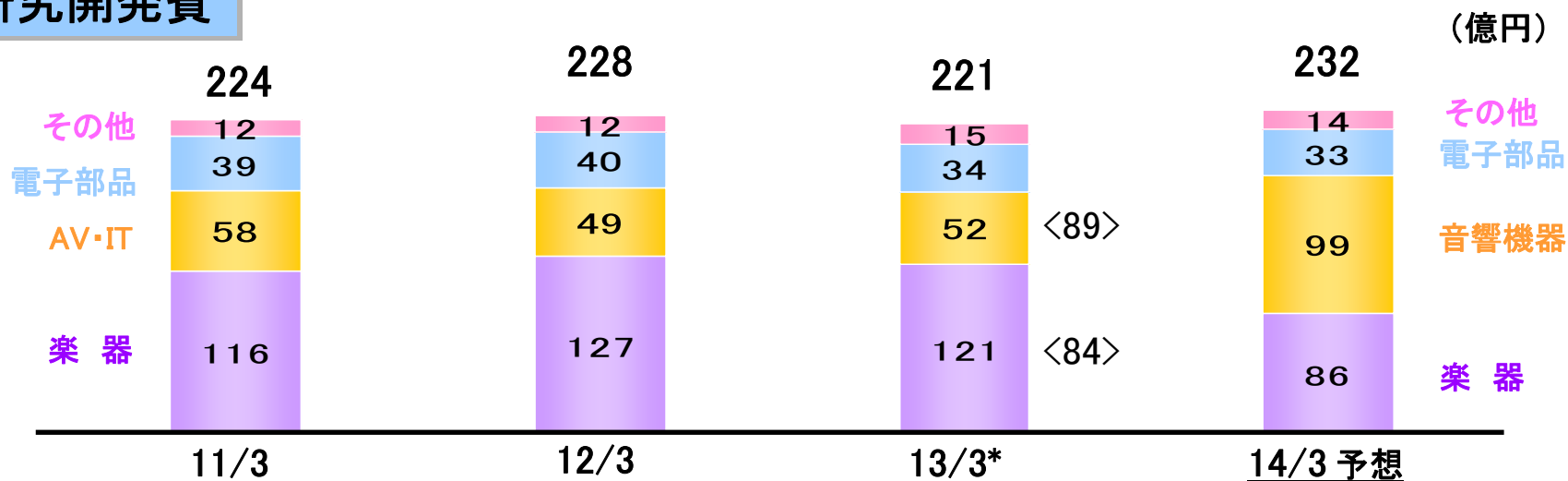


## 設備投資額(減価償却費)

※13/3期の新セグメントによる実績値は、比較のために組み替えた参考値を<>内に表示  
11/3期と12/3期についての参考値はありません。



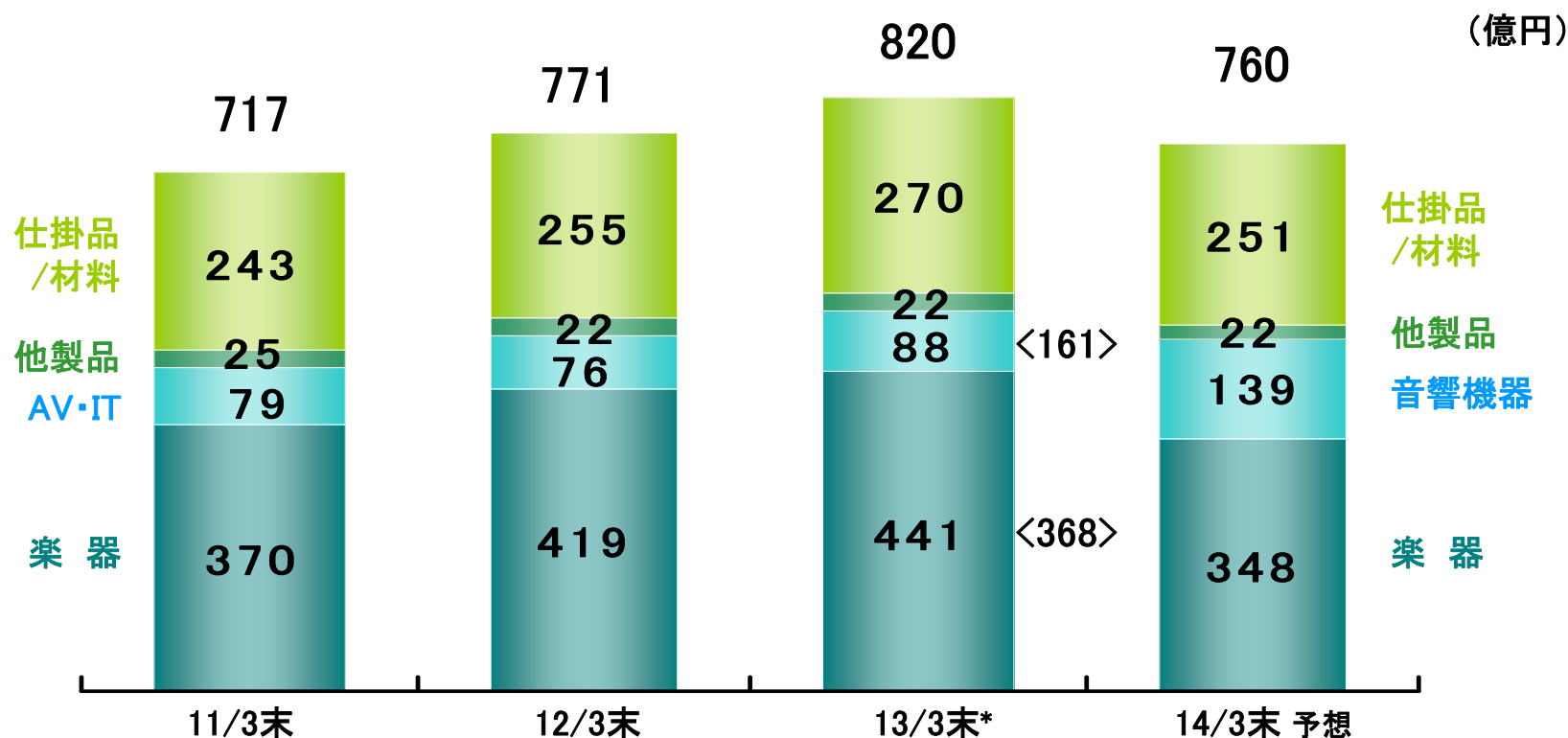
## 研究開発費





# 棚卸資産

- 13/3末総在庫は対前期49億円の増加  
 為替影響+62億円を考慮すれば実質13億円の減少  
 対前回予想でも49億円の増加、内為替影響49億円あり、前回予想通り



※13/3期の新セグメントによる実績値は、比較のために組み替えた参考値を< >内に表示  
 11/3期と12/3期についての参考値はありません。

# 貸借対照表

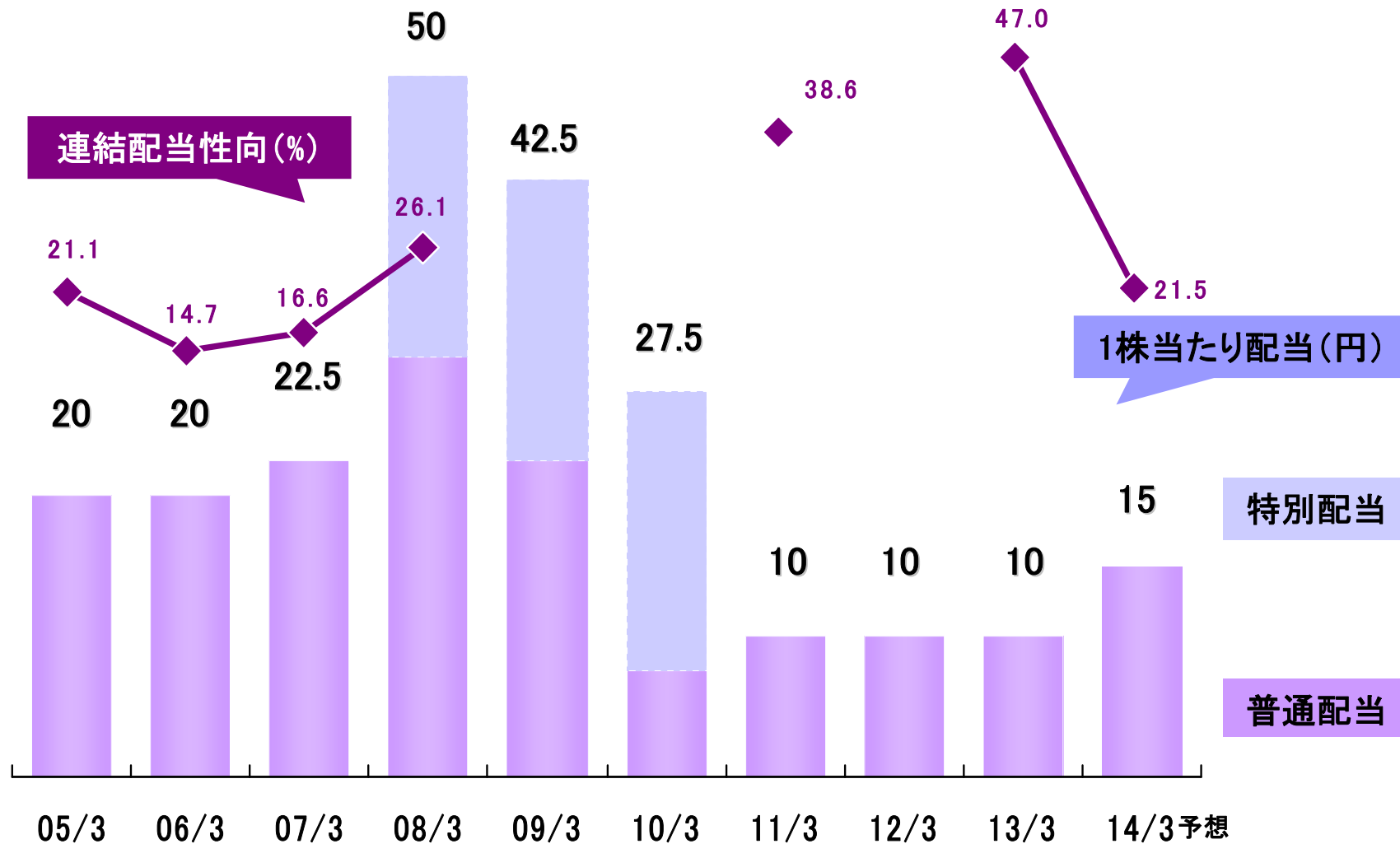


(億円)

	11/3末	12/3末	13/3末	14/3末予想
現預金	587	566	514	554
売上債権	451	445	510	502
棚卸資産	717	771	820	760
他流動資産	192	108	135	139
固定資産	1,962	1,776	1,927	1,948
<b>資産計</b>	<b>3,909</b>	<b>3,666</b>	<b>3,906</b>	<b>3,903</b>
仕入債務	242	223	203	200
借入金	118	113	100	77
リゾート預託金	159	155	154	154
他負債	940	1,107	1,153	1,082
純資産計	2,450	2,068	2,296	2,390
<b>負債純資産計</b>	<b>3,909</b>	<b>3,666</b>	<b>3,906</b>	<b>3,903</b>

# 株主還元

➤2014/3期年間配当は、15円の予定



# 付属資料

# 2013/3期 4Q業績



▶ 対前年同期、対前回予想とも増収増益

(億円)

	12/3 4Q	13/3 4Q	前年同期比	13/3 4Q 前回予想	前回予想比
売上高	860	930	+8.2%	911	+2.1%
営業損失	▲29	▲12	—	▲34	—
経常損失	▲22	▲10	—	▲36	—
当期純損失	▲321	▲3	—	▲45	—

為替レート

(円)

売上高

US\$

79

92

85

EUR

104

122

115

利益

US\$

78

90

85

EUR

104

104

105

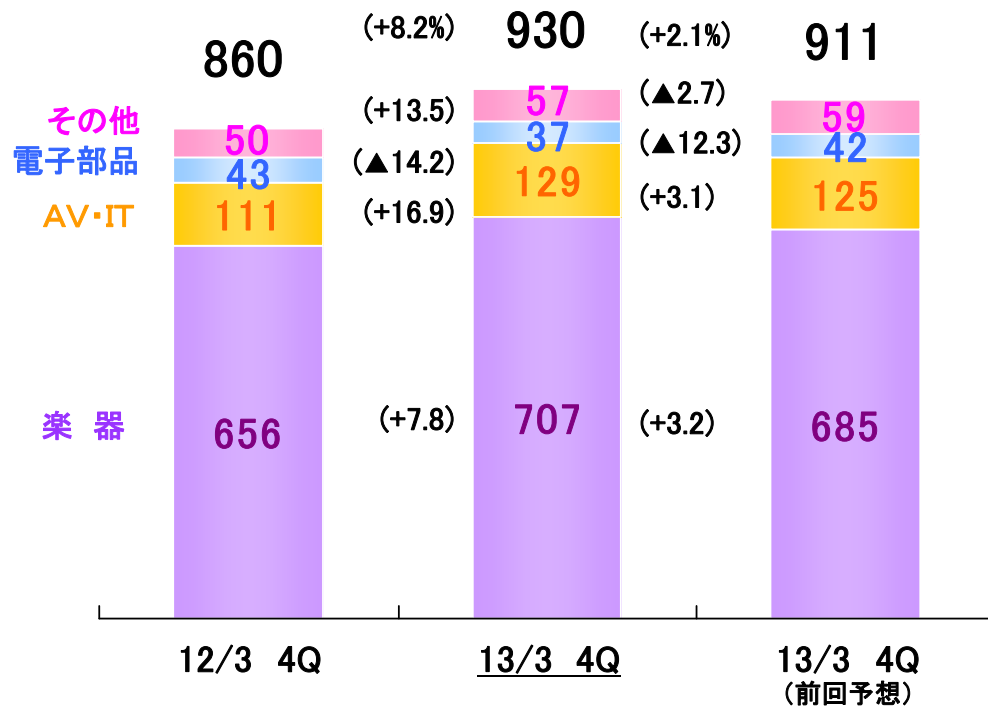
\* 前回予想は2013/2/6 発表

# 2013/3期 4Q事業別業績

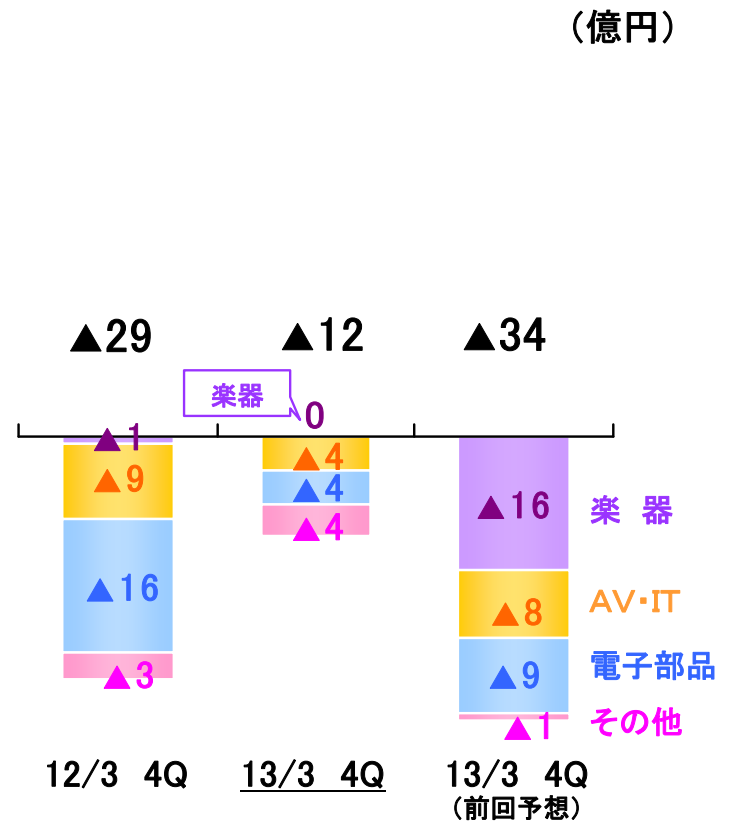


( )内は前年同期比  
または  
前回予想比

## 売上高



## 営業損益



	為替影響額
前年同期比較	+76億円 (楽器 +60億円、AV・IT +15億円、電子部品 +1億円)
前回予想比較	+35億円 (楽器 +28億円、AV・IT +6億円)

\* 前回予想は  
2013/2/6 発表

	為替影響額
前年同期比較	+9億円 (楽器 +10億円、AV・IT ▲1億円)
前回予想比較	+2億円 (楽器 +3億円、AV・IT ▲1億円)

# 通期営業外損益、特別損益

	12/3	13/3	14/3 予想
(億円)			
<b>営業外損益</b>			
金融収支	13	11	10
その他	▲21	▲17	▲25
計	▲8	▲6	▲15
<b>特別損益</b>			
固定資産処分損益	▲1	16	▲1
その他	▲2	▲24	1
計	▲3	▲8	0
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     構造改革費用 ▲31                      [ 国内事業雇用調整 ▲25                      営業施設減損 ▲6 ]                 </div>			
<b>法人税他</b>			
法人税等	40	37	36
法人税等調整額	321	▲2	▲8
少数株主利益	3	2	2
計	364	37	30

# 楽器四半期別売上高／営業利益

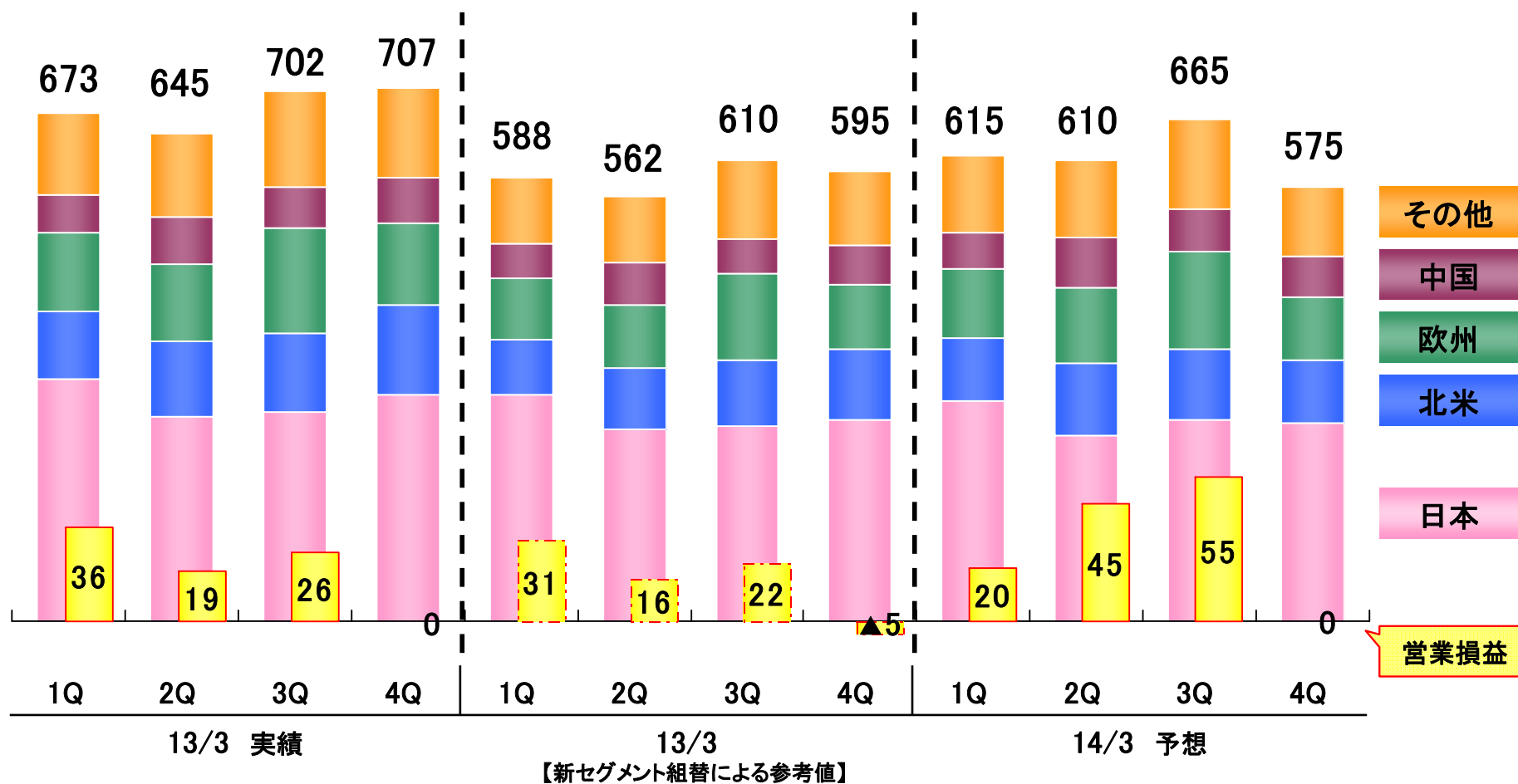


売上高 2,727億円  
営業利益 81億円

売上高 2,355億円  
営業利益 64億円

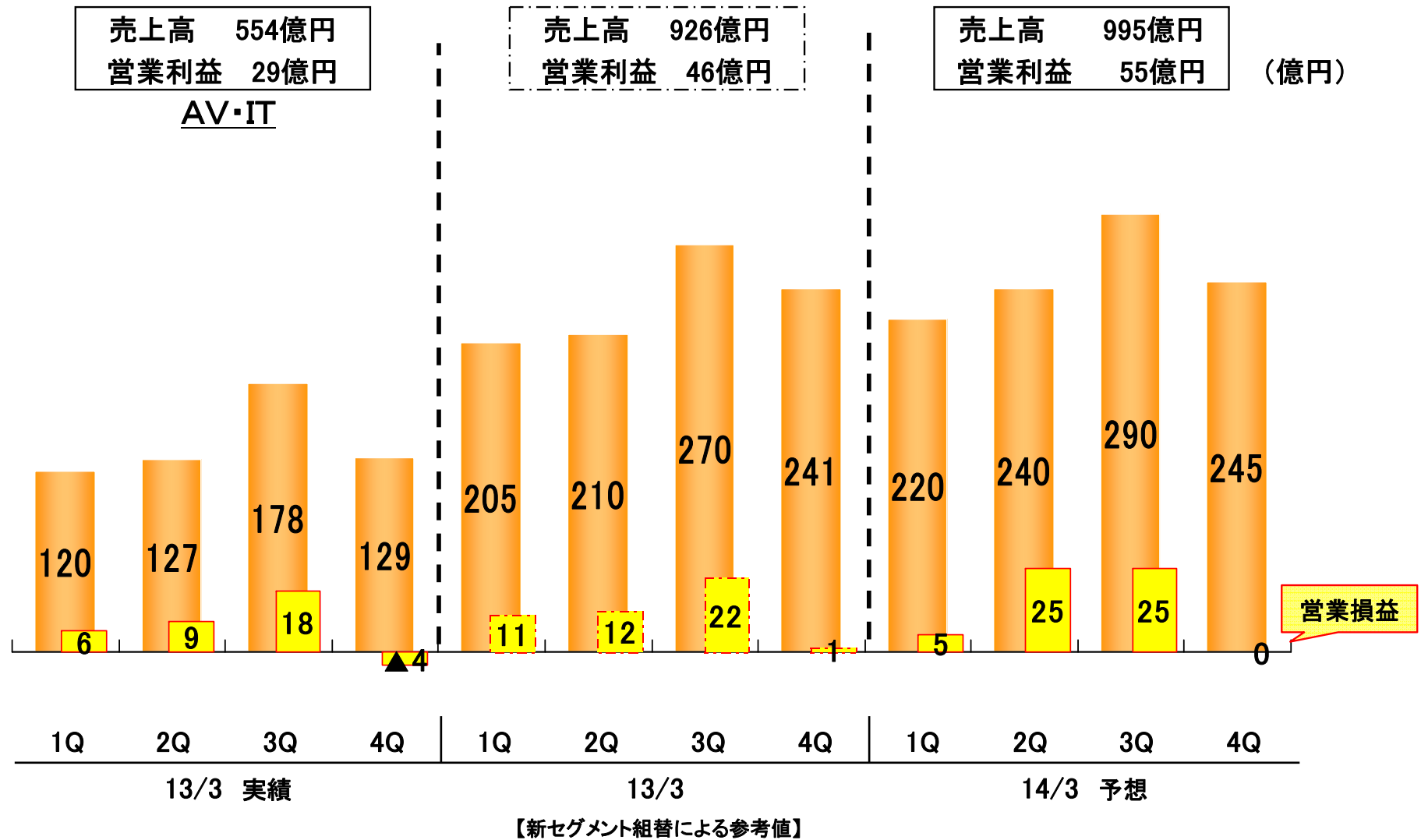
売上高 2,465億円  
営業利益 120億円

(億円)

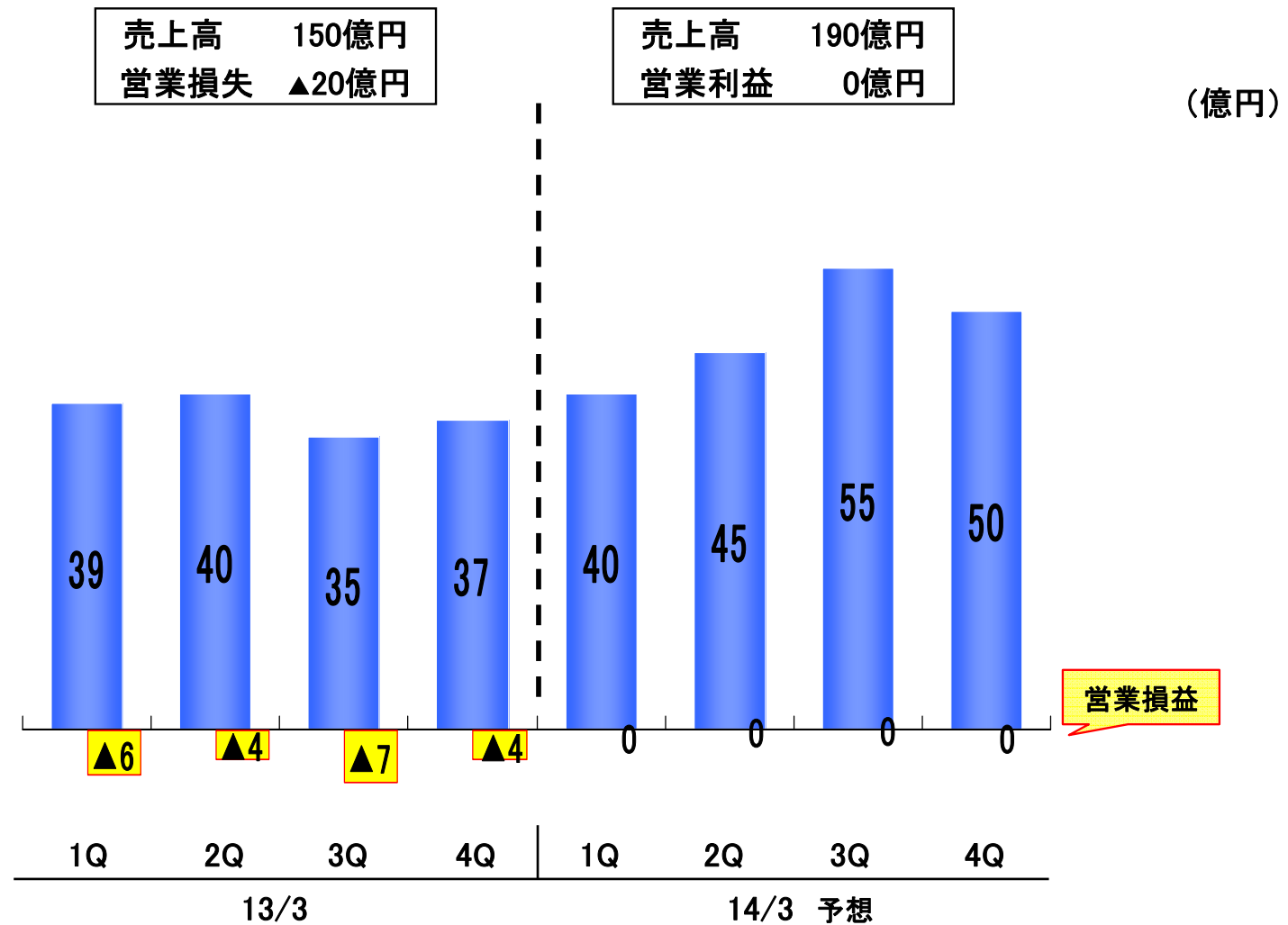




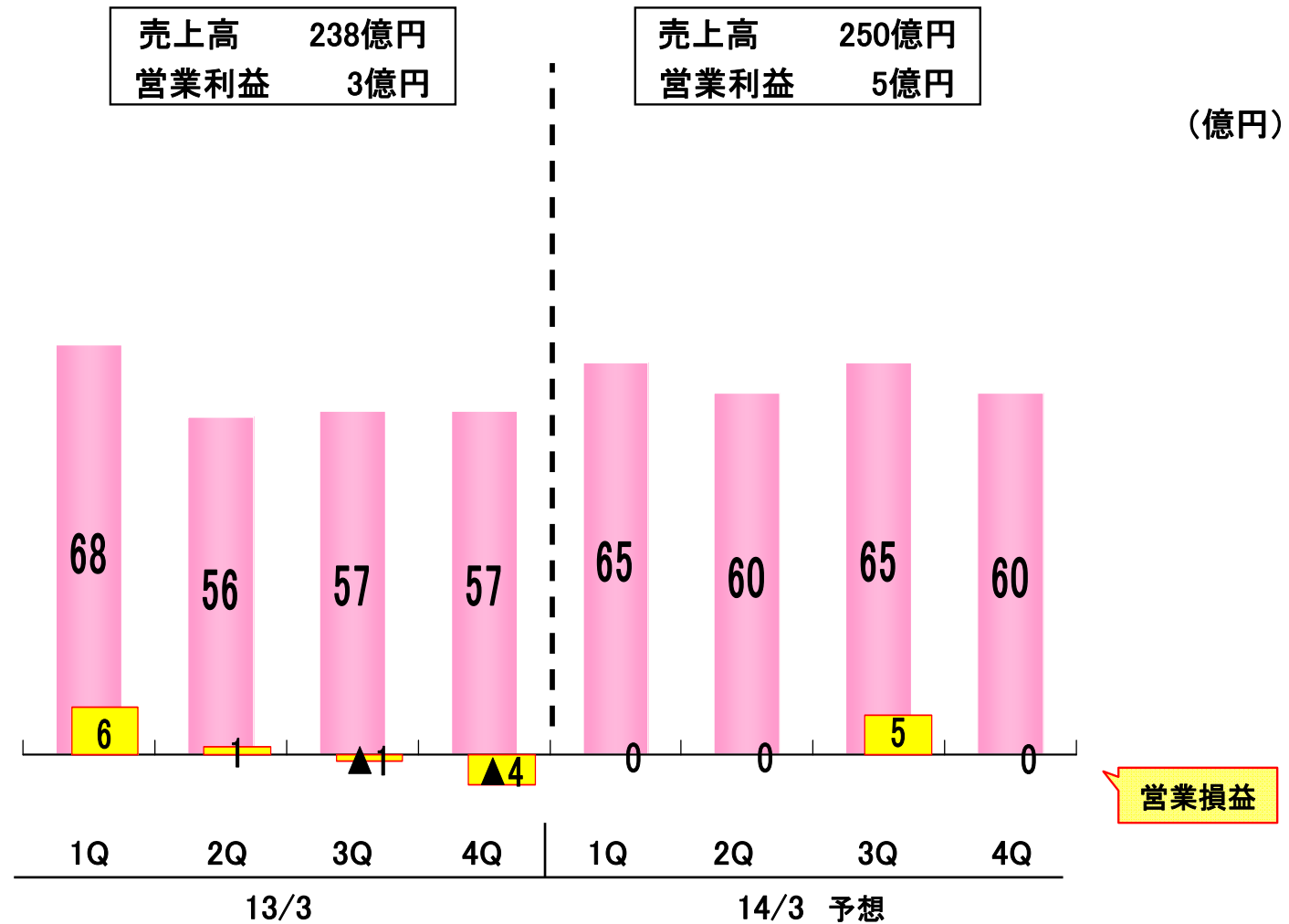
# 音響機器四半期別売上高／営業利益



# 電子部品四半期別売上高／営業利益



# その他四半期別売上高／営業利益



この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基づいており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。